

# 小牧山 戦国に馳せる

小牧・長久手の戦い（長久手合戦）



小牧山

# 戦国に馳せる

長久手町郷土史研究会

第22回 小牧・長久手の戦い（長久手合戦）

会長 中野 鉄也



▲徳川家康画像（名古屋博物館蔵）

天正12年（1584）4月6日、中入り各隊は各々陣地を進発し、8日の夜半には庄内川を渡り、長久手から岡崎へと進軍します。

これを察知した家康は急遽、榊原康政、大須賀康高、水野忠重、丹羽氏次他を先遣隊として追撃を命じ、家康自身も本隊を率い、9日早朝には長久手に到着します。

9日早朝から午後1時頃にかけて長久手を中心に次の四つの戦いが繰り広げられます。

早朝5時過ぎ、池田・森隊が、僅か240余名のたてこもる岩崎城（日進市）を攻撃し全滅させました（岩崎城の戦い）。

同じ頃、白山林（名古屋守山区、尾張旭市）で、三好信吉（のちの秀次）隊が榊原康政ら家康先遣隊の

攻撃を受けて、なすすべなく潰走します。信吉自身も馬を失い、家臣の馬で辛くも逃げのびます（白山林の戦い）。

その三好隊の敗兵を追撃する先遣隊に対し、堀秀政が、三好隊の敗兵も組み込んで松ヶ根（長久手町）で待ち伏せし撃退します（松ヶ根の戦い）。

このあと仏ヶ根（長久手町）で家康本隊と、岩崎城から戻った池田・森隊が決戦し、家康が完勝します。

この戦いで池田勝入、嫡男元助および森長可の三将は討死します（仏ヶ根の戦い）。

勝った家康は小幡城（名古屋守山区）に戻ります。

一方の秀吉は昼ごろ長久手での敗北を知り、急遽長久手目指して進軍し、午後4時頃守山の竜泉寺に到着

します。そして家康が小幡城に入つたのを知り、明日決戦することを決意しますが、家康は夜半に城を抜け出し、小牧山へ戻ってしまいます。これで長久手合戦は終わります。

この長久手合戦は家康の完勝でしたが、所詮局地戦での勝利であつて、大局的には秀吉に勝てませんでした。

11月に入つて、信雄が秀吉と単独で和睦したあと、家康も講和に応じます。

しかし長久手合戦での家康の勝利は大きな財産となり、後年、家康の天下取りへの大きな礎となりました。



▲色金山床机石（いろがねやましようぎいし）色金山歴史公園（長久手町）にある床机石。徳川家康はこの色金山上に金扇の馬標を立て四方を望見して軍議をめぐらしたといわれます。

問合先 文化振興課 ☎76-1189